

丸山直文個展「水を蹴る」

2022年9月24日(土) - 11月5日(土)



私たちはどこに立っているのか

雨上がりの道、水たまりに私の視線は吸い寄せられる

そこには木々や空、街並みが映っている

足下だけが映らない

私はどこに居るのか

二つの相似の世界

水を蹴る

水面は揺れ、二つの世界が混じりあう

その繋がれた場所に私たちは立っている

そして絵画が生まれる

2022年8月 丸山直文

水面に映る景色のように丸山直文の絵画は画面の上で揺らぎ続ける。視点は定まらず、絵は滲むようにキャンバスの外の世界へ広がり、観客それぞれが持つイメージと繋がったり、また離れたりする。山は川と混ざり、川は空と混ざり、そして私たちと混ざり合う。名辞的な世界から解放されたもう一つの世界がそこにある。

丸山はキャンバスの上に水を張り、水を通して画布に絵具を染み込ませながら描いている。「湿地帯のような『場』で制作している」というその手法によって、描いている過程で色も形も、作家の目的も変化し続ける。不安定で流動的な環境においてどのようなイメージを育てることができるか、そして不安定で流動的なリアルにおいてそれらはどう映るのか、丸山の関心は水というミディアムを通して探求され続けてきた。



丸山直文《水を蹴る（この間に）》2022

絵画は物質的な側面を備えつつも静的な存在ではない。時間や場が変われば、その意味も変化する。その自由を受け入れる容れ物として、ゆらゆらと捉え所のない丸山の絵画はむしろ優れて柔軟な強度を持っているといえないだろうか。

2018年に発表されたグレーの絵具のみを用いて制作された作品群を経て、本展では改めて多様な色彩の魅力も発揮し、3メートルを超える大作を含めた新作群を一挙に披露する。

2022年8月 シュウゴアーツ



丸山直文《水を蹴る（それゆえにこそ）》2022



丸山アトリエにて 作品のためのドローイング

丸山直文個展「水を蹴る」

会期：2022年9月24日(土) - 11月5日(土)

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：12:00 - 18:00 日月祝休廊

企画：石井美奈子

*オープニングレセプションは開催いたしません。新型コロナウイルス対策のため開廊時間を短縮しております。

丸山直文

1964年新潟県生まれ、東京都在住。1990年代以降の日本の重要なペインターの一人として第一線で活躍を続ける。水を含んだ綿布にアクリル絵具を染み込ませて描くステイニング技法を用いた丸山の作品は、モチーフが柔らかに融解して時間も場所も判然とせず、具象でありながら抽象であり、主体/客体の境界も取り払われて、絵画と渾然一体となる境地へと見るものを誘う。丸山のこうした絵画表現は極めて理論的かつ誠実に、「絵画の内部にしか発生しない空間の可能性」の探究と実践によって作り出されている。2000年より武蔵野美術大学造形学部油絵学科教授。2008年芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

主な展覧会に「ラスコーと天気」シュウゴアーツ（東京、2018）、「流」ウソングャラリー（大邱、2017）、「GROUND2 絵画を語る - 見方を語る」武蔵野美術大学美術館図書館（東京、2016）、「ニイガタ・クリエーション」（新潟、2014）、「浮舟」豊田市美術館（愛知、2011）、「透明な足」シュウゴアーツ（東京、2010）、「丸山直文-後ろの正面」目黒区美術館（東京、2008）、「ポートレート・セッション」広島市現代美術館（広島、2007）、「秘すれば花」森美術館（東京、2005）、「ハピネス：アートにみる幸福」森美術館（東京、2003）、「台北ビエンナーレ」台北私立美術館（台北、2002）、「MOT アニュアル」東京都現代美術館（東京、1999）、「第8回インドトリエンナーレ」（ニューデリー、1994）、佐谷画廊個展（東京、1992）など。

シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

プレスに関するお問い合わせ：石井・山田 gallery@shugoarts.com

◆シュウゴアーツアーティスト情報はこちらをご覧ください：<http://shugoarts.com/topics/>